

# 平成29年 第4回定例会

## いっぱんしつもん

12月14日に、7名の議員から町行政に対する一般質問がありましたので、要旨をお知らせします。

### 住民の声を町行政に

#### 町政について問う



広田 毅 議員

広田議員 近隣の町も本町と同様に構造的問題を抱え、それゆえ施策も似たものになりがちである。財政状況が違う中、本町が独自色を出しているのは難しいが、本町にとって今何が必要か、中長期的なビジョンについてはどうあるべきか、これらを踏まえて、主な案件について伺う。①高校跡地についてだが、現在の交渉の進捗状況について伺う。また、道に利用構想を提示するとのことであったが、現在において提示されているのか、いないのか、提示したのであればその内容を伺いたい。②町民会館、郷土館とともに老

朽化が進み、耐震性にも問題があることは周知の事実である。田中町長は今般行われた公開討論会で、早期の新築移転には消極的な考え方であると感じたが、改めて考えを伺う。また、あわせて郷土館についても伺いたい。③妹背牛診療所についてだが、現在広域医療体制の充実が叫ばれる中、診療所の果たすべき役割と必要性についてどう考えているのか。また、現在の指定管理料については議論もあるが、適正な指定管理料についてどう考えているのか。④田中町政の今後4年間の最重要施策とは何か。公開討論会では、役場の機構改革と役場に入りやすい環境をつくることと言及していたが、具体的な内容について伺う。

町長 ①寺崎町長時代に青写真が示されたが、まだ道への提出までにはいっていない。まずは、町道の確保と雪の排雪に関する利便性をとりたいて考えている。②町民会館は老朽化が激しく、耐震に関する問題は、確かに基準が変わり厳しくなっている。もう少し時間をかけて審議していきたい。郷土館については、120年の歴史をどう保存するか早急な結論を出すのはいかなるものかと感じている。保存だけでなく、これを将来の町民に差し出していくための施策が問われていると思う。



▲妹背牛町郷土館

まだまだ郷土館の使い方は勉強できるのではないかと、これからの魅力的な使い方を検討する。④建物を建てる、大幅な行政改革、あるいは特殊なものをとという考えは今はない。加藤町政、寺崎町政、田中町政と引き継がれてきた流れの中で、今までの問題、クレームを一つ一つ潰していこうと考えている。そのために役場町民、議員が議論しやすい雰囲気をつくり出すという意味の機構改革を考えている。

健康福祉課長 ③深川市を中心とした1市4町で北空知地域医療介護確保推進協議会の中で在宅医療、介護の連携を進めているが、その中でも診療所の役割は大きいので、地域住民にもかかりつけ医とし

ての理解を高齢者のみならず若い世代にも普及啓発していく必要性を認識している。また、適正な指定管理料については、法人側との年度の決算報告書を踏まえた中で、これから折衝していきたい。

## 町職員の定住について問う



石井 喜久男 議員

の考えを伺う。

**石井議員** 現町職員の定住だが、町職員の町外移住、町外通勤について伺う。第2回定例会でも質問したが、町職員は災害などの緊急時に公務を優先しなければならぬことから定住すべきで、粘り強く指導するとの答弁があった。

①その後、約6カ月間の指導状況を伺いたい。②また、人口減少に歯止めが効かない状況で、一人でも人口をふやすために町職員は本町に住民票を置くべきと考えるが、町長

の理解を高齢者のみならず若い世代にも普及啓発していく必要性を認識している。また、適正な指定管理料については、法人側との年度の決算報告書を踏まえた中で、これから折衝していきたい。

**総務課長** ①町外居住10名中、持家居住4名を除く6名に対し、よほどの事情のない限りは立場を自覚した中で町内居住に向けた行動をとってほしい。町民からは、職員は町内に住むべきという声、もっと言えば町職員である前に職員は町民の一員でなければならぬといった声も多くあること等々の文書を提示し、担当部署課長より面談を行った。

②人口減少に対する危機感からの質問かと思うが、町外居住者に住民票を異動せよとは言えず、やはり公務員としての自覚のもと可能な限りは本町に転入、居住すべきと考えている。

## 町長の公約について問う

**石井議員** 町長の公約について伺う。町長は、公約を13項目挙げていたが、何々を「する」、何々は「検討する」と表現している。このうち「検討する」は5項目だが、残りの8項目は全て実施するのかわう。

**町長** 公約を13項目出していた。検討は5項目との指摘だが、正確には7項目で、残り6項目は全て実施するのかというところで答弁する。現実はこの6項目を同時に進行することは不可能で、順次実行していきたい。検討というものは検討するだけで終わるのではなく、前向きに検討する。もちろん議員、町民、それからこれを策定していく職員の方々として話詰めていく過程を大事にしたい。

(他には職員住宅についての質問がありました。)



▲平成29年妹背牛町議会第4回定例会

## 減反政策について問う



工藤 正博 議員

**工藤議員** 来年度から廃止される生産調整、いわゆる減反政策についてだが、40数年間、農家は紆余曲折があったものの辛抱強く国の減反政策に協力し、まさに真綿で首を絞められるように続けてきた。全

道の生産者、そして行政、また農業関係機関など、米関係者が一体となったオール北海道体制で需要に応じた米生産を推進していく考えのようである。そこで①地域協議会ごとの生産目標の設定方法は、一体どういうものか。②幾ら道の水田部会が頑張っても、ほかの都府県がきちんと生産量を管理しなければ市場に米があふれ値崩れし、このオール北海道の取り組みは一体どうなるか。歯止めが効かなくなる。



▲北海道産米

## 生活保護費について問う

**工藤議員** 生活保護費の扶助基準の引き下げ問題についてだが、この3年間で期末一時扶助を含む全国合計で740億円もの大幅削減となった。現在、この引き下げが栄養バランスのとれた食事や入浴回数など、生活水準の引き下げ前より低下し、困窮化が進んでいることが明らかになった。子供の学習塾通いや冠婚葬祭への参加をやめたり、暖房費を節約して風邪を引いたりするなど深刻な影響が今や全国に広がっている。本町での生活保護世帯でも生活実態調査が必要だと思う。いずれにしても、生活保護世帯へのきめ細かな対策が必要ではないか。

が行っている。ただし、議員指摘のケースにおけるきめ細かな支援は、当然本町としても必要と考えているので、道に支給の決定権はあるが、決定後は本町で生活するので、

相談支援体制は福祉事務所のケースワーカーと引き続き連携し、進めていかなければならないと認識している。  
(他には介護報酬、新学習要領の改定についての質問がありました。)

## 町づくりについて問う



鈴木 正彦 議員

**鈴木議員** 新聞記事だが、公設民営のスーパーやコンビニエンスストアの outlet が道内で相次いでおり、その中で滝上町では人口減で採算が悪化した食料品店が撤退したり、そのおそれが高まったことで買い物弱者の増加を懸念した行政が支援を決定した。スーパーは病院や福祉施設と同様に住民の暮らしに不可欠な社会インフラであり、交流の拠点である。なくなれば地域のさらなる衰退が明白であったという記事である。この事例を考えてみると、本町と似ており、人口規模もほぼ一緒で、過疎化や高齢化は避けて通れないことに気がついた。閉店後に支援を考えるのではなく、その前に手を差し伸べる方法はないのか。色々と支援はしているが、積極的な策を考え、対策を練っていかねばならないと考えるが、町の考え方を伺いたい。

**企画振興課長** 買い物弱者救済は、町内の商店がそれぞれ丁寧なサービスを提供し、買い物弱者を生み出さないよう

**農政課長** ①北海道農業再生協議会では12月25日に各市町村に対し、生産の目安を示す予定で、その設定方法は各農協の生産販売計画や各市町村からの作付意向調査等の報告、これを加味して示す予定である。②国は平成30年産の米の適正な生産量として、735万トンを示している。これは今年の生産数量目標と同じ量となるが、これを達成できるかどうか、全国組織がどう機能するかが判明しないので、現時点では判断できない。仮に達成できない場合、値崩れが起こりやすくなり、過去

には26年産が1俵平均で1万1891円まで下がり、今年産は平均で1万5501円で回復した。値崩れした当時国においては、供給を分散させるために保管料等の助成金を出した記憶がある。このような措置が今後もあるかどうか、措置したとしてもそれが歯止めになるのかは判断できない。また、全中では全国組織において米価安定を図るため早急に制度設計をするとしており、大いに期待したいが、内容が不明で現在のところ明確に歯止めになるとは答えられない。

## 教育施設対策について問う



▲妹背牛商工会館



渡辺 倫代 議員

**渡辺議員** 先の教育施設についての答弁で、議論を始めるとの答えにとどまった。町長は具体的な答えは控えたが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によって、町長の教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、町長が公の場にて教育政策について議論することが可能となった。まだ議論されてはな

いが、校舎の老朽化と児童生徒数の減少から、恐らく確実に数年後には対策が必要になってくる。本町の子供たちをどのような環境で育てていくのか、それは建物と理念を含めて、妹背牛プロジェクトのような立ち上げが必要ではないかと思う。町民会館も地域のコミュニティ拠点と同時に、災害に強い安全、安心な施設としての防災拠点になり得るものが必要であるし、将来的な変化を見越して、機能性と柔軟性のある設備が必要になってくる。町長は、教育行政に関しても明確なビジョンを持ち、将来的な展望を抱かなければならないと思うが、小中学校校舎を今後どのようなにしたいのか。今の中学校近辺敷地に町民会館を示した

悪いものになるのではないかと危惧を抱いてこの話をした。決して積極的に小中学校の統合を先に実施してから、町民会館を建てるという話をしたわけではない。しかし、建築年数が経っているので、この問題は確かに避けて通れない。自分も教育の出身にも本当に関心を持っているから、ただ建物としてという議論はするつもりはない。中身に関してもきっちり話をしながら、議員、町民とコンセンサスを得ながら、この問題に邁進していきたい。

な形ということ、常日ごろから商工会とともに各運営を行ってきた。町では商工会と連携し、購買力流出対策として毎月の倍ポイントデーの実施、町主催事業へのモスビーポイント進呈、タクシー利用者助成のお買い物おもてなし事業等を実施しており、商店街が活性化する起爆剤となるよう政策として行っている。

もに生きていきたいか、こういう提案の趣旨、そのやる気が前提になれば行政は基本的に動くことはできない。これは冷たいということではなく、どういう手を差し伸べてほしいのか、こちらが最初に提案する形には基本的になり得ないと思う。提案をまずは商工会あるいは店舗を通して行政にしっかり伝えて、その中で何ができるか、何をしなければいけないかを真剣に討議したい。

町長が公の場にて教育政策について議論することが可能となった。まだ議論されてはな

**町長** 討論会では、一つのコンパクトシティーという構想を話した。それは、町の中に町民がより集う機能を持つていたい、郊外に流出すると、町の機能が外側に流れてしまつて、どうしてもまとまりの



▲妹背牛小学校校舎

## 選挙公約について問う

**渡辺議員** 選挙公約にジャンボ宝くじ共同購入で返済不要の進学支援金クラウドファンディング事業計画の検討とある。理想や目的を掲げて、インターネットを通じて不特定多数の人々から資金提供を呼びかけて出資を募るといのがクラウドファンディングと認識している。どのように制度を利用し、どのように財源を継続的に確保していく考えなのか。本町には、昭和47年より運営されている奨学資金があるが、これは給付型ではない。しかし、この既存の奨学資金とどう差別化を図っていく考えなのか。新たに返済不要の奨学資金を設けることが可能だとして、希望する申請者との線引きはどこにするのか。選挙公約となっていたので、公約として述べた以上は何らかの形が必要と思うが、具体的な考えを伺う。



**町長** クラウドファンディングとしたという意味は、確かに不特定多数の人が相手だ

## 町長の基本的考え方について問う



渡会 寿男 議員

が、金を集めるという意味ではない。例えばジャンボ宝くじは年間5回発売されているが、その券を買って送ってもらい、町がその番号を管理して、高額当選者、その額をどこからにするかは具体的に決めているが、当選金は当選者に3分の1権利があり、次の3分の1は一緒に買った人、その期に買った人全員で分ける。残りの3分の1が自分の提唱した返済不要の進学基金という形で考えていた。

### 渡会議員

①人口減少対策についてだが、総合戦略も策定

しており、人口減少を抑制するには雇用の創出、住宅環境、子育て環境と全てが密接に関係し、すぐに問題が解決するものではなく、地道な施策と活動が重要と考えている。人口動態を見ると、自然減は22年から26年の5カ年平均で年間38・2人となっているが、直近の自然減と社会増減数の転入、転出を見て、素直な思いと具体的な考えがあれば伺いたい。②農業振興についてだが、妹背牛農業を今後どのように描いているのか、長期ビジョンがあれば伺いたい。③米穀乾燥調製貯蔵施設の機能増強工事についてだが、平成28年、沼田施設、平成29年に秩父別施設の改修が終わり、

処理能力のアップと品質向上に大きくつながっているとこである。妹背牛施設も早急に色彩選別機、あるいは糊摺機等の更新が必要だとして昨年事業計画をしたが、事業費を含め予算獲得がどの程度進んでいるのか伺いたい。

**町長** ①素直な思いは、この流れはどうしたら止まるかと

いうことである。最初に取り組みたいのは、町内企業に町外から通っている人がいるが、アンケートを行い、この企業だけではなく本町に働きに来ている人の中で、本町に住みたいという考えのある人たちを抽出し、動向を探りながら、優良賃貸住宅がどれぐらい必要なのか、準備をしたい。②加藤町政からの大規模区画による農業、寺崎町政でのGPSを使った先進的な農業など、この方向が一部にありな



▲米穀乾燥調製貯蔵施設

## 除排雪について問う



佐田 恵治 議員

から、本町農業が全部これに向かって進むとは考えられない。やはり小さな農業、特色のある農業、あるいは花卉栽培、色々な種類の人が農業を支えて、大きな意味で大きな農業、それから小規模、中規模でも特色のある農業が生き残っていける農業施策の中で重要な要素を占めているのではと考えている。

**農政課長** ③平成30年度の国の強い農業づくり交付金事業の採択を目指して、空知総合振興局とのヒアリングは終了し、現在、振興局と道との協議が行われている。年明けには道と国の北海道農政事務所との協議、その後、農水省との協議となる。事業採択は、4月を想定しているが、採択されるかは国の予算枠があるので確定ではない。なお、事業費については、税込みで3億2400万を予定しており、このうち49%は国の補助金になる。残りは、過疎債と農協の基金で対応する予定で、財政的な負担は軽いものと予想している。

**佐田議員** 昨今異常気象が続いている中、強風や大雪に見舞われることは想定しなければならぬ。その上で、昨年と今年の除雪体制計画について伺いたい。また、小学生や高齢者の交通安全上も含めた歩道の確保について昨年も同様の質問をしたと思う。特に西1丁目線の歩道の確保については、小学校への通学、学校が終わってから部活動で体育館に通うためにそこを歩く頻度は、他の道路から見ても大変高いと思う。父兄や高齢者からの要望も多数寄せられているが、この点での考えを伺いたい。

**建設課長** 今年の除排雪計画は昨年と同様で、歩道除雪は、0・4キロメートルを考慮して

いるが、この路線についてはふれあい通り、保健センターから山一線、役場前、西1丁目北6条、みどり団地までの歩道となっている。歩道管理は、町民の理解と協力が不可欠であり、極力車道あるいは歩道への雪出しを控えてもらうことが必要と考えており、町民にも協力を願いたい。

## 町政懇談会について問う

**佐田議員** 町長は、リーダーとして役場の雰囲気刷新し、町民参加のまちづくりを進めたいとしている。本町において町政懇談会は、町民が直接行政とまちづくりについて話し合う場であり、町長や行政のまちづくりについて知る場でもあると思う。たいへん大事な取り組みでもあると思うが、開催時期や開催内容について例年と同様に考えているのか、また変えていこうとしているのかを伺いたい。

しているのかを伺いたい。

▲除排雪作業



**町長** 町政懇談会は1月26日金曜日から2月2日金曜日のスケジュールで、1区は夜間7時からとなっている。町民からは政策決定の時期が11月、12月なのに、なぜこの1月、2月の時期なのかとよく言われた。確かに、意見のあった瞬間に実施できるものは良いが、問題は町民からの意見を政策に転換し、色々な前例を調べてベストなものをつくっていくためには、政策決定の時間がかかる。これを考えると、やはり1、2月に出された意見を検討しながら、次年度の予算に反映させていくという道筋が、行政の中に入ってみて正常な道筋ではないかと思うようになった。これに対しては、批判があれば受けたい。

(他には町行政の執行、地方自治法・日本国憲法、温泉ペル経営についての質問がありました。)